

さいせいおたる



社会福祉法人 恩賜財団済生会支部北海道

済生会小樽病院

〒047-0008 北海道小樽市築港10番1号

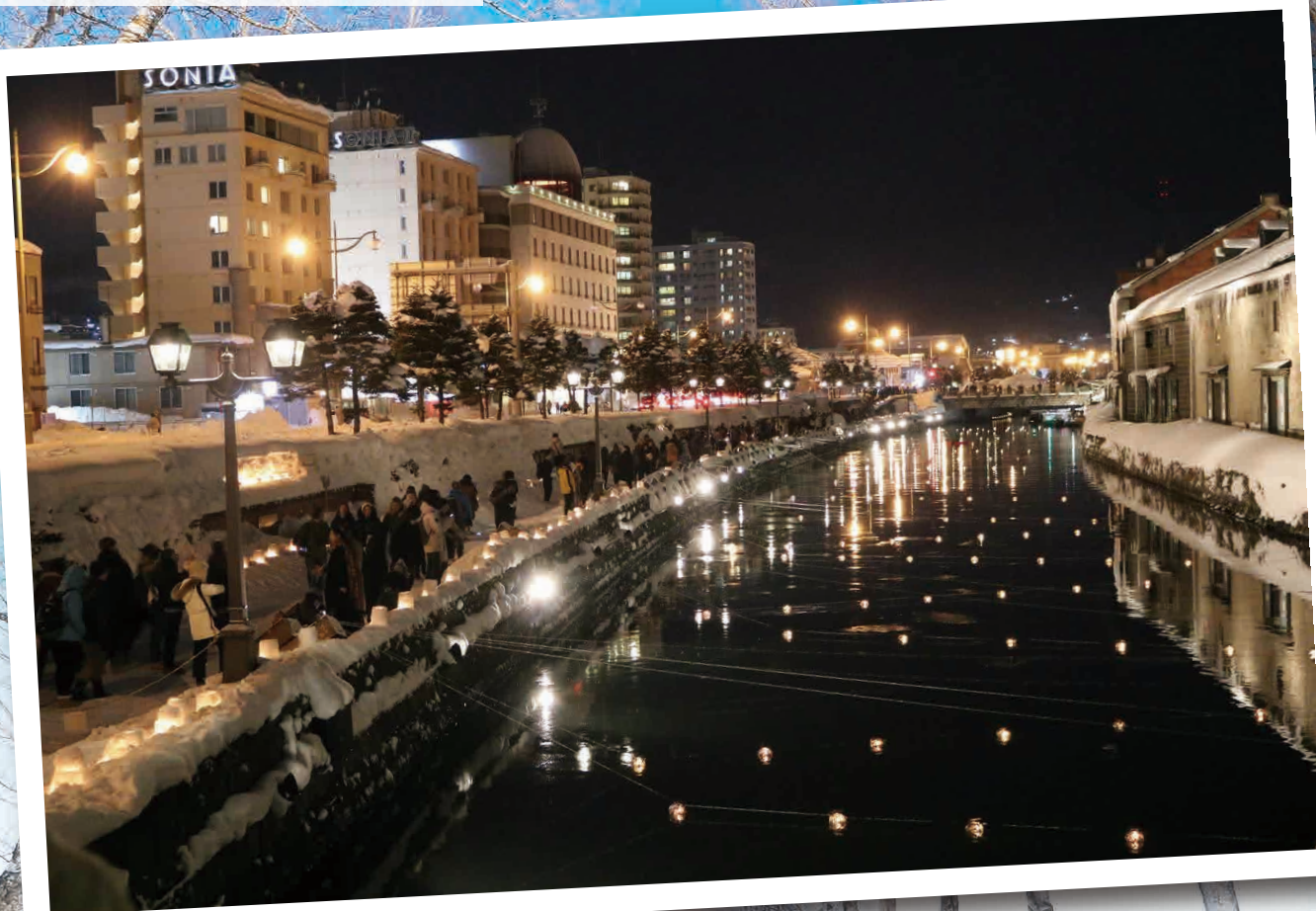
TEL 0134-25-4321(代)

FAX 0134-25-2888

URL <http://www.saiseikai-otaru.jp/>

発行 和田卓郎 発行日1月31日

編集 広報委員会(中村圭介)



「雪灯り」

撮影 中村 圭介 (写真部)

■目次

- 02 コラム 2019年新年挨拶
- 03 インフルエンザに気をつけよう
- 06 薬剤室の新たな取り組み～外来での薬剤師面談～
- 08 当院における認知症ケアのあり方について
- 09 小樽オレンジかふえ
- 10 無料低額診療事業のご案内 ほか

理 念

新たな地域医療の創造と社会貢献
患者中心、患者主体の医療
人を大切にする組織

2019年新年挨拶

コラム

済生会小樽病院 院長 和田 卓郎



新年明けましておめでとうございます。
4月末に天皇陛下の退位、そして改元という
大きな時代の節目を控えた平成31年が始ま
りました。地域の皆様には、いろいろな思い
をもって新しい年を迎えられたことと思います。

まず、昨年末からインフルエンザが猛威を
振るっています。うがい、手洗い、体調管理
に気を付けて予防に努めてください。もし、
かかったかもしれないと思ったら、早めに医
療機関を受診しましょう。

4月より、長橋にある身体障害と知的障害
が重複した方々に医療・介護・福祉を提供す
る施設である「済生会西小樽病院みどりの里」

の済生会小樽病院敷地内への新築移転工事が
始まります。2020年8月に竣工し、2つ
の病院が統合することによって新しい済生会
小樽病院が誕生します。地域への医療、介護、
福祉の一体提供体制がより強化されます。ま
た、病院を中心とした街づくりにも一層の貢
献ができると思っております。工事期間中は
近隣の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご
理解のほどよろしくお願いいたします。

済生会小樽病院は、患者さんに選ばれる病
院、また職員が笑顔で働ける病院として、地
域に最高の医療を提供できるよう取り組んで
まいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



インフルエンザに気をつけましょう

コラム

済生会小樽病院 感染制御対策室

インフルエンザが流行しています。北海道では年末年始付近から患者数が増え、複数の地域でインフルエンザ警報が発表されました。インフルエンザは予防が大切です。インフルエンザについて正しく知り、予防に努めましょう。

◆インフルエンザとは高熱や全身症状が強く現れる病気です

インフルエンザウイルスに感染すると、約1～3日の潜伏期間の後にインフルエンザを発症します。主に、突然の38℃以上の「高熱」や、関節痛、全身倦怠感などの「全身症状」が現れます。やや遅れて、咳やのどの痛みなどの「呼吸器症状」も現れます。

◆インフルエンザの流行時期は？

季節性のインフルエンザは、例年11～12月頃に流行が始まり、1～3月にピークを迎えます。

◆インフルエンザウイルスはどうやって感染するの？

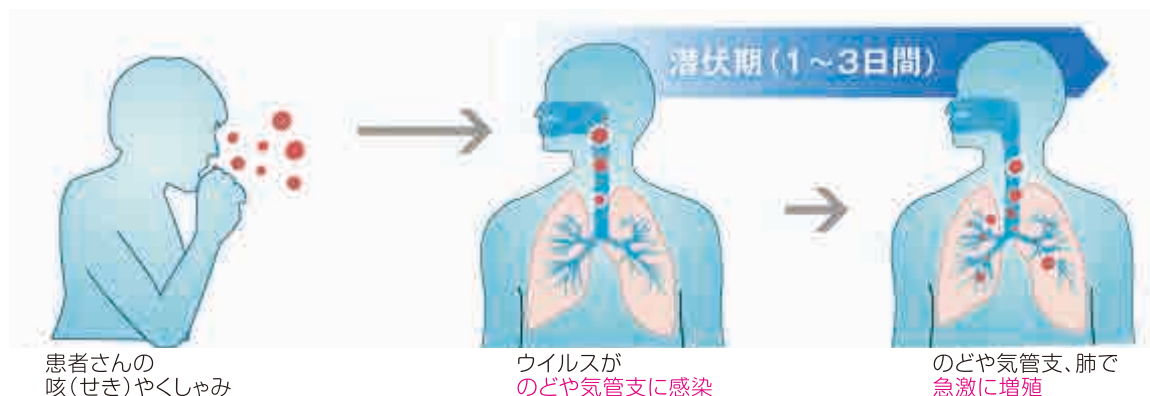
インフルエンザは主に、インフルエンザに感染した患者さんの咳（せき）やくしゃみなどのしぶきに含まれるインフルエンザウイルスを吸い込むことによって感染します。これを飛沫（ひまつ）感染といいます。

インフルエンザウイルスは、呼吸とともに鼻やのどから体内に入り込み、気道の粘膜に吸着して細胞内に侵入します。感染したウイルスは、のどや気管支、さらには肺で急激に増殖していきます。感染2日後にはウイルスの増殖はピークに達し、その後減少します。

インフルエンザウイルスの急激な増殖が、他のウイルス感染症に比べて、速やかな発症につながっている要因と考えられています。

（4 ページに続く）

インフルエンザウイルスは、のどや気管支、肺で増殖する！



（出典：「インフル・ニュース」 第一三共株式会社）

(3 ページから)

◆インフルエンザの症状は？

インフルエンザウイルスに感染した場合、約 1 ～ 3 日の潜伏期間の後、インフルエンザを発症します。続く約 1 ～ 3 日では、突然の 38℃ 以上の「高熱」や全身倦怠感、食欲不振などの「全身症状」が強く現れます。やや遅れて、咳（せき）やのどの痛み、鼻水などの「呼吸器症状」が現れ、腰痛や悪心（吐き気）などの「消化器症状」を訴えることもあります。通常は、10 日前後で症状が落ち着き、治癒します。

◆インフルエンザの予防～ワクチン、手洗い・うがい、マスク～

 毎年、流行シーズンの前に、インフルエンザワクチンを接種しておきましょう！

インフルエンザの予防には、インフルエンザワクチンの接種が有効です。ワクチンの接種により、インフルエンザの重症化や死亡を予防し、健康被害を最小限にすることが期待されています。わが国でも、ワクチンを接種する方が年々増えています。

ワクチンは、その年にどのウイルスの型（タイプ）が流行するかを予測して、毎年製造されています。また、ワクチンの効果は 1 年間であるため、毎年、流行シーズンの前に接種することが望ましいと考えられます。



手洗い・うがい・マスク

手洗いは手や指などに付着したインフルエンザウイルスを物理的に除去するために有効な方法であり、うがいは口の中を洗浄にします。外出後の手洗い・うがいは、感染症の予防の基本です。



インフルエンザが流行してきたら、特に高齢者や慢性疾患を抱えている人、疲労気味、睡眠不足の人は、なるべく人ごみや繁華街への外出を控えましょう。やむを得ず外出するときは、マスクを着用しましょう。

インフルエンザウイルスに感染すると…



◆インフルエンザの治療法



**睡眠や水分補給が基本。
抗インフルエンザウイルス薬も
効果的です**

インフルエンザ治療の基本は、安静にして「睡眠」を十分にとること、そして、高熱による脱水症状を防ぐために「水分補給」をしっかり行うことです。ウイルスの増殖を抑える「抗インフルエンザウイルス薬」も効果的です。お薬により、発熱期間が 1 ～ 2 日短縮され、症状も徐々に改善していきます。

製品名 写真	形状	使い方
タミフル 	カプセル ドライ シロップ	1 日 2 回 5 日間
ゾフルーザ 	錠剤	1 日 1 回 1 日間
リレンザ 	粉末吸入	1 日 2 回 5 日間
イナビル 	粉末吸入	1 日 1 回 (単回投与)
ラピアクタ 	点滴	1 日 1 回 1 日間

◆インフルエンザになってしまったら感染を拡大させないため、対策しましょう

インフルエンザは、インフルエンザに感染している人の咳やくしゃみ、会話の時に空気中に拡散されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することで感染します。

感染の多くは、この「飛沫感染」によると考えられ、ドアノブなどの環境表面についたウイルスへの接触により、鼻や口などの粘膜や傷口などを通して感染する「接触感染」も成立します。

せきエチケットで 感染拡大を 抑えましょう!

おさえる



せき・くしゃみの際には
ティッシュなどで
口と鼻をおさえる

そむける



せき・くしゃみの際には
周りの人から
顔をそむける

すぐ捨てる



鼻と口をおさえた
ティッシュはすぐに
フタつきゴミ箱に捨てる

せきをしていれば マスクをつける



せき・くしゃみの症状が
あればマスクをつける。
また、せきをしている
人に着用をすすめる。

薬剤室の新たな取り組み～外来での薬剤師面談～

コラム

薬剤室 課長 鈴木景就

済生会小樽病院薬剤室は薬剤師 13 名、調剤助手 1 名の体制で『安全な薬物療法の支援』を目標に調剤（内服・外用薬、注射薬）、薬品管理、医薬品情報提供などを行っています。また、各病棟に専任の薬剤師を配置し薬物療法の支援を行うなど入院患者さんへの関わりが大部分を占めています。一方、外来処方箋の院外発行に伴い外来患者さんへの関わりは少ない現状にあります。今回薬剤室として外来患者さんへの関わりを増やす新たな取り組みとして薬剤師面談を開始したので紹介します。

1. 入院決定後の入院前薬剤師面談

入院後には治療または検査のため様々な薬を使います。病棟薬剤師は手術や検査などに関わる安全性向上のため入院後に持参薬（患者さんが入院時に持ち込まれる普段お使いになっている飲み薬・点眼薬・貼り薬・注射など全ての薬）の確認を行っています。持参薬の情報を早く的確に把握することは、入院後の治療をより適切に行う上でとても重要です。これまでは入院後に行っていましたが、使用している薬によっては手術や検査を延期せざるをえない危険性がありました。そこで、外来の時点で使用薬剤を把握することが有用と

考え入院決定後の薬剤師面談を開始することにしました。

薬剤師面談では主に現在飲まれているお薬・サプリメントなどの服用状況やアレルギー・副作用歴を確認します。また、検査や治療、手術の際に中止するお薬があれば、その選定をするとともに休薬期間を提示、入院当日までの薬に関する注意点をお話しています。時間は 5 ～ 10 分です。お薬手帳は当院および他院の医師から処方されている全てのお薬が記載されているためとても大切な情報源です。受診の際に常にお持ちになることをおすすめします。



2. がん治療における薬剤師面談

以前はがん治療に使用される薬は副作用が多く、点滴が中心だったため入院で治療する機会が大半を占めていました。近年、新たな経口抗がん剤の開発により注射薬と同等である内服薬が増えている事、注射薬の副作用も軽減されてきたことに加え副作用対策も充実してきたことで、外来で治療が可能となっています。しかしながらすべての副作用を防ぐことは難しく、患者さん自身に副作用対策を行っていただいた上で、治療を進める必要があります。決められた薬を正しい量、正しい期間服用することができないと治療効果を得る事はできません。また、日常生活に影響するほどの副作用が出ている状況ではその後の治療方針に影響を与える可能性があります。当院ではがん治療の安全性を高めるために様々な対策を行っていますが、その一つとして薬剤師面談を開始しました。

薬剤師面談は新規に抗がん剤治療が開始される場合は医師の診察後に作用や副作用に関する情報を説明します。治療開始後は副作用モニタリングを中心に、医師の診察前に薬剤師による問診を行い、得られた情報を医師に還元するとともに副作用に対する薬物治療の提案を行っています。現在は 1 名の専任薬剤師

が担当しており、1 回にかかる時間は 10 ～ 20 分です。

今回の取り組みはこれまで関与が低かった外来患者さんに対する内容であり、入院後の治療において安全性を高め、また在宅で行うがん治療を安全に行う事が出来るためとても重要と考えています。いずれも短時間で行う事が出来ますので、外来での貴重な時間となりますがご協力よろしくお願いします。



当院における認知症ケアのあり方について

コラム

看護部 3A病棟主任 岸本悦子

当院では、認知症の患者さんも安心して治療を受けられるよう、認知症ケア推進室を中心として職員教育や組織づくりを行っております。

成り立ちとしては、平成28年7月に済生会本部にて認知症看護を理解し認知症看護の推進役となる認知症支援ナースを育成する目的で『第1回認知症支援ナース育成研修』が開催され、当院も参加させていただきました。同年の10月に、当院神経内科松谷学医師や大橋とも子看護部長、研修を修了した各病棟のリンクナースを中心に認知症ケア委員会（現・認知症ケア推進室）を発足し現在の体制を築いております。

教育としましては、年に4回研修会を開催しております。最近の内容では、平成30年12月4日に「当院における認知症を持つ人々の医療安全」というテーマで医療安全管理対策委員会の笹山課長と共同で研修会を行いました。認知症ケア対象者におけるインシデント発生の現状や、転倒転落・チューブ類の自己抜去が多い時間帯などについて職員の知識を深めることが出来たと思います。また、当院では睡眠薬使用者の減少とともに転倒転落件数が減少しております。そのため「認知症ケア対象者の転倒転落状況と服薬について」を

テーマとし、認知症ケア推進室の又村健太薬剤師に医原性せん妄の事例やせん妄の薬物治療についての研修会も同時に開催していただきました。

認知症患者は不眠や興奮、せん妄などの症状を引き起こしやすく、それによって転倒転落のリスクは増加します。そのため、患者さんの全身状態を十分に観察し早期発見につなげ、適切な薬剤選択による治療を行っていくことが重要です。

今後、当院の認知症ケア推進室ではリンクナースや多職種との連携をさらに強化し、活動を拡大していきたいと思っております。



小樽市認知症カフェ 小樽オレンジかふえ築港店



林先生の『今でしょ!』講座、 クリスマス会を開催しました!

平成 29 年度から開催している小樽市認知症カフェ『小樽オレンジかふえ築港店』も2年目を迎え、おかげさまでたくさんの参加者さんにお越しいただいております。

10 月 18 日に済生会小樽病院神経内科部長である林貴士先生をお招きし、林先生の『今でしょ!』講座を開催いたしました。参加者さんから事前に認知症に関する質問を受け、林先生に答えて頂くというトークショー形式で行い、皆さんからもっと林先生の話を知りたいと要望が出たほど盛況をいただきました。

12 月 6 日は㊦宇宙船「小樽オレンジかふえ築港店」にのって旅してみよう☆を開催しました。宇宙に旅立ち、宇宙船から地球を見て何が見えるかを想像していただき、限らない想像の世界を参加者さんと繰り広げることが出来ました! 支部長である近藤真章先生にもお越しいただきご挨拶をしてくださり、最後はクリスマスソングを参加された皆さんと合唱しました!

地域に関わっている南部包括支援センターでは、日常的に認知症に関する相談を受けております。『小樽オレンジかふえ築港店』を通して、地域の皆さんに対し認知症に対する疑問点等に応え、知識と理解を深めていただく、地域の皆さんで互いに支えあうことの大切さを伝えさせていただくことが地域包括ケアシステムの構築につながる機会でもあると考えています。

認知症の方やご家族、地域の皆様、どなたでも気軽に自由に参加できるカフェです。次回は 3 月 14 日にお楽しみ抽選会と感謝状受理を行います。ぜひ、かふえにいらしてみませんか!!



無料低額診療事業のご案内

済生会小樽病院では、生活困難な方が経済的な理由によって必要な医療（治療）を受ける機会が制限されることのないよう、医療費の自己負担を軽くする診療費減免（無料低額診療事業）を実施しています。下記のような方は、相談窓口にお越しくださるか、看護師・事務職員にお申し出ください。

（どの程度負担を軽くできるかは、収入や必要な医療費によって変わります）

- 病気で仕事を辞めた ●収入が減った ●年金額が低い
- 生活保護に該当しなかった ●非課税世帯 ●借金があり生活困難

基準を満たしているかどうかを判断する為、収支の分かる資料（源泉徴収や課税証明書などの申請者及び世帯全員の収入がわかるもの等）を提出していただきます。この制度の利用をご希望される場合は、“総合案内”（1階ロビー内）にてお申し出ください。医療ソーシャルワーカーがご事情をお伺いいたします。



交通のご案内



■中央バスをご利用の場合

- 「各種系統 ばるて築港線」にて済生会小樽病院前下車し徒歩1分
- 「系統2番・3番 本線（桜町～高島3丁目）・（新光2丁目～手宮）」
- 「系統6番 望洋台線（小樽駅～望洋台シャントウ下）」にて小樽築港で下車し徒歩10～15分
- 「高速バス おたる・よいち・ニセコ・いわい号」潮見台下車徒歩10分

■JRをご利用の場合

- JR小樽築港駅から徒歩10～15分

施設認定

- 日本内科学会認定医制度教育関連病院
- 日本消化器病学会専門医認定施設
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本甲状腺学会認定専門医施設
- 日本神経学会専門医教育施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本整形外科学会専門医研修施設
- 日本手外科学会基幹研修施設
- 日本泌尿器科学会専門医基幹教育施設
- JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
- JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設

～ 院 是 ～

恕

じょ
（おもうやり）

～ 専門外来の受診について ～

当院の専門外来は、「他医療機関の紹介状」及び当院の一般外来からの紹介が必要です。また、専門外来によっては「完全予約制」となりますのでご注意ください。詳細につきましては、各科外来もしくは、下記までお問い合わせください。

予約センター専用ダイヤル 0120-489-275（病院診療日の平日14:00～16:00）